

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 8 月 12 日 (2021.8.12)

【公開番号】特開 2020-8061 (P2020-8061A)

【公開日】令和 2 年 1 月 16 日 (2020.1.16)

【年通号数】公開・登録公報 2020-002

【出願番号】特願 2018-128751 (P2018-128751)

【国際特許分類】

F 1 6 F 15/129 (2006.01)

F 1 6 F 15/123 (2006.01)

F 1 6 D 13/64 (2006.01)

【F I】

F 1 6 F 15/129 C

F 1 6 F 15/123 A

F 1 6 F 15/123 B

F 1 6 D 13/64 G

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 6 月 21 日 (2021.6.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 8】

前記緩衝部材は、前記第 1 摩擦部材よりも大きい摩擦係数を有する、請求項 1 から 7 のいずれかに記載のダンパ装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

(8) 好ましくは、緩衝部材は、第 1 摩擦部材よりも大きい摩擦係数を有する。この場合は、第 1 摩擦部材が緩衝部材に当接すると、緩衝部材の表面に対してすべりにくくなる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 3】

以上から、捩り特性の 1 段目では、{ 入力側回転体 2 0 + ハブフランジ 2 1 + サブプレート 3 4 + スプリングホルダ 3 5 } が一体回転し、これらの部材に対して { ドライブプレート 3 6 + スプラインハブ 4 } が回転する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0094】

この場合は、L - Hヒス発生機構13によるヒステリシストルクHと、Lヒス発生機構14によるヒステリシストルクhLとが発生する。具体的には、第1摩擦ワッシャ51とクラッチプレート24又はスプラインハブ4との間、及び第2摩擦ワッシャ52とスプラインハブ4との間、において摩擦抵抗が発生する。また、同時に、波線56とサブプレート34との間、及びドライブプレート36とスプリングホルダ35との間においても摩擦抵抗が発生する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0107

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0107】

また、第1摩擦材61は第1摩擦ワッシャ51より低い弾性を有するので、第1摩擦ワッシャ51が第1摩擦材61の緩衝部61bに当接しても、第1摩擦ワッシャ51が損傷するのを避けることができる。さらに、緩衝部61bは第1摩擦ワッシャ51よりも大きい摩擦係数を有しているので、第1摩擦ワッシャ51が緩衝部61bに当接しても、第1摩擦ワッシャ51がすべりにくく、第1摩擦ワッシャ51の姿勢が変動するのを抑えることができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 7】

